

令和 5 年 12 月 6 日 基地周辺対策特別委員会 議事録
10 時 00 分 開会

○出席委員 (8 人)

委員長 山崎 年一

副委員長 中川 智之

委員 中野 友博、山代 英資、岡 和明、藤川 和弘、西村 一啓、
日域 究

議長 北地 範久

副議長 寺岡 公章

○欠席委員 なし

○山崎委員長 皆さん、おはようございます。定足数に達しておりますので、ただいまより会議を開きます。

開会に当たりまして、市長に御挨拶をいただきたいと思います。

市長。

○入山市長 基地周辺対策特別委員会、開催ありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

○山崎委員長 それでは、日程にしたがいまして進めさせていただきます。

まず、日程 1、執行部報告事項についてを議題といたします。

執行部からの御報告をお願いいたします。なお、時間を要すると思いますので、着座の上、御報告いただいて結構でございます。

危機管理課長。

○田中危機管理課長 危機管理課長の田中でございます。よろしくお願いします。

それでは、まず、資料 1 から資料 4 により、定例の報告をいたします。

定例の報告は通常 3 カ月分の資料により行っておりますが、9 月は委員会での報告がございませんでしたので、今回の資料はいずれも 5 月から 10 月までの 6 カ月分をまとめた報告となります。

まず、1 ページ、資料 1 を御覧ください。

こちらは阿多田地区における日常の航空機の騒音状況について、漁協の職員の方をお願いしまして、御自身や住民の方が感じたことの実情等について記載をお願いしているものです。

今回は 6 カ月の合計で 38 件の記録が残されております。この報告内容につきましては、毎月取りまとめ、防衛省、中国四国防衛局岩国防衛事務所のほうに騒音苦情の実態といたしまして情報提供するとともに、騒音対策への配慮と訓練等の情報提供についてお願いをしているところでございます。

続きまして、4 ページ、資料 2 を御覧ください。

こちらは阿多田島漁協の屋上に防衛省が設置しております騒音自動測定器で測定した航

空機等が飛来した際の音をデシベル値で表した表となっております。1日単位、発生時間ごとに70デシベル以上の記録をまとめた結果で、こちらは中国四国防衛局から資料提供をいただいているものでございます。

この騒音のデシベル値の目安でございますけれども、環境省のホームページを参照してみると、70デシベルで鉄道の車内ぐらい、90デシベルですとパチンコ店の中といったような表示がされておられます。その特に音の大きい90デシベル以上となったところ、こちらが黄色の表示がしてございますが、この黄色い表示のところを数えてみますと、5月が81回、6月が10回、7月が26回、8月は8回、9月が34回、10月は15回となっております。6か月の合計が174回となります。

昨年度の同期間の合計が148回でしたので、比較すると18%程度の増加となっております。

続きまして、22ページまで飛びます。今度は横長の資料になりますが、資料3を御覧ください。

こちらは防衛省が岩国航空基地の周辺地域市町の25カ所に設置しております騒音測定器から計測された値をうるささ指数というものに変換して集計したもので、こちらは中国四国防衛局のホームページ上で公開されているものでございます。

このうるささ指数ですが、騒音の強さ、強度ですね、継続時間、発生頻度のほかに、発生の時間帯の要素も考慮をする必要がございます。1日を日中、夕方、夜間の3つに分けて、時間帯別に重みをつけて評価をしているというものでございます。

値については2種類表示されておまして、表の上段に書いてある数字ですね、こちらがL d e nと書いていますが、L d e n値というもので、中段、括弧書きの中に入っている数字がW E C P N L、ちょっと長いんですが、こちらは通称W値と申します。こちらのL d e n値のほうが現在、国際的に主流となっております基準値でございます。日本では2013年、平成25年4月からこの基準値を採用しているということでございます。W値のほうは、日本では1973年から2013年3月まで採用されていた基準値ということです。

この表の下側には、騒音の発生回数が見えております。最初の表、こちらは月別の平均値を掲載したものでございまして、22ページから24ページまでが令和5年4月から10月分までまとめたものでございまして、大竹市の測定地点はナンバー7、阿多田島漁協とナンバー9、サントピア大竹の2カ所になります。

こちらの月別の平均値の表ですね、上段のL d e n値の平均値で、測定地点のうち居住地に該当するものを比較してみますと、5月以降では8月を除いて、阿多田島漁協が毎月最も高い数値を示しているという結果になっております。

25ページから42ページまでは、この5月から10月までの毎日の計測結果を示した表となっております。ページ数がちょっと多いんですが、34ページのところを見ていただきたいと思います。

今、表示されたかと思うんですが、ナンバー7の阿多田島の行のところを見ていただきますと、8月23日から8月の末日まで欠測という表示になっております。

またちょっとページ飛びます。37ページをお願いします。こちら、9月1日から12日

までが欠測という表示になっております。

この件につきまして、中国四国防衛局に確認しましたところ、欠測の期間は騒音測定器が故障により停止していたということで、原因究明と修理、それから、動作確認に多くの期間を要したということでございます。停止の原因は雷によるものと推測されるということでした。

この25カ所の測定地点ですが、位置関係がですね、43ページの縦長の資料がございます。こちらを御参照いただけたらと思います。丸に数字が振ってありますが、これがそれぞれの測定地点を表すものになっております。

それでは、続きまして、44ページの資料4を御覧ください。

こちらは、先ほど説明いたしました資料3のW値のほうですね、こちらの月別平均値を折れ線グラフで表したものになります。なぜ最新のL d e n値ではないかといいますと、滑走路の沖合移設前からの状況と比較をするため、W値によるグラフで表示しているものです。

それで、大竹市のナンバー7、阿多田島漁協ですね、それと岩国市内のナンバー3、こちらは基地の北側にございます岩国市三笠町東中学校の数値と比較したものとなっております。

データの見方でございますが、緑色の線が平成20年度、滑走路の沖合移設前です。青色の線が平成28年度で、沖合の移設後、黄色の線が令和元年度、ピンク色の線が令和4年度、昨年度ですね、いずれも空母艦載機移転後の計測値の比較となっております。今年度、令和5年度は4月から10月までが黒い線で表示されております。

今年度、毎月の数値は黄色の線の令和5年度と同じような動き方をしているのが見てとれますけれども、5月と7月と9月で、過去最大値を記録しております。

ここで、岩国基地の関係の空母艦載機の動きについて、簡単に補足説明をいたします。空母は横須賀を母港としておりまして、寄港している間、艦載機は岩国基地に駐機することになります。例年、5月下旬から6月初旬頃、空母を出港しまして、それに伴い艦載機も空母と行動をとものにします。しかしながら、艦載機は出港予定の数週間前から離着陸訓練や空母への着艦試験、これを繰り返すために、5月にかけて岩国基地周辺でも非常に大きな騒音が続く傾向がございます。

空母の出港後は、米軍機の半分程度が岩国基地からいなくなるために、基地周辺の騒音はある程度下がってくるんですが、毎年11月頃には空母がまた戻ってきますので、艦載機も岩国基地に帰還し、それ以降、翌年の空母が出港するまでの間ですね、騒音が大きくなるという傾向がございます。

昨年度ですね、ピンク色の線ですが、見ていただきますと、4月に高い値を示して以降、若干低下の傾向はあるんですが、横ばいに近い形で10月まで推移して、また11月から増加傾向に転じております。

これは、6月から7月にかけて外来機が岩国基地に飛来・滞在しまして、訓練を実施したこと、また、8月から9月にかけて空母艦載機が岩国に一時帰還しまして、滞在中にまた訓練を実施したことが影響していると考えられます。

今年度も7月2日から21日にかけて大規模演習が行われまして、嘉手納基地から外来機が岩国基地に展開したほか、8月25日から9月29日にかけて空母ロナルド・レーガンが横須賀に入港しまして、空母艦載機も岩国に一時帰還、訓練を行ったことが影響しているのではないかと推察されます。

定例の報告資料については、以上でございます。

続きまして、その他報告資料、45ページの資料5を御覧ください。

こちらは令和5年度の上半期の米軍機の航空機騒音発生状況等の概要というもので、広島県が半年ごとに発表しているものでございます。今年の4月から9月までの集計となっております。

こちらの最初のページの3、概要(1)というところに集計対象という欄がございますけれども、国設置の騒音測定器における70デシベル以上の航空機騒音が発生した回数等を記録したもので、県内設置箇所の6地点を比較した表となっております。

上半期で比較いたしますと、今年度の騒音発生回数の6地点合計が4,679回と過去最多を記録しておりまして、阿多田島がその半数近くを占めております。いずれの測定時点でも過去最多の数値を記録しておりますけれども、前年度同期の数値と比較しますと、阿多田島では約1.2倍、西栄では約1.5倍となっております。

また、空母艦載機の移駐完了前の平成29年度同期の数値と比較しますと、阿多田島では約2.6倍、西栄では約14.9倍という数字になっております。

この表の下にちょっと小さな字なんですけれども、書いてありますように、8月23日から9月12日の21日間、阿多田島においては測定器の異常により欠測となっているという記載がございます。先ほど説明したとおりですが、なので、実際の騒音発生回数はさらに多かったのではないかと推測されます。

次のページを見ていただきまして、4の参考(市町からの米軍機低空飛行の目撃情報)という項がございます。こちらは県内市町での米軍機の低空飛行の目撃情報を集計し、比較した表となっております。

(1)から(4)の順に、令和元年度以降の年度別集計、今年度上半期の市町別の集計、それから、曜日ごとの集計、それから、時間帯別集計となっております。

続きまして、今度は追加資料になります。オスプレイ墜落に関する情報提供についてという資料です。

11月29日に米軍横田基地所属のオスプレイが、鹿児島県屋久島東側沖合に墜落した件につきまして、中国四国防衛局等から得られた情報についてまとめたものを報告させていただきます。

墜落事故の当日ですね、報道があった後に、こちらから中国四国防衛局の業務課のほうに連絡をいたしまして、把握されている情報について聞き取りをするとともに、今後、逐次情報提供していただきたい旨、口頭で要請をしております。

翌30日に中国四国防衛局からメールで届いた内容でございますけれども、こちらは3項目、丸の印がついているところでございます。事故後の搜索救助活動の現状、それから、2つ目の丸が米軍への申し入れ事項ですね。それから、3つ目の丸が陸上自衛隊のオスプ

レイの運用について、こちらは1ページに記載のとおりの情報提供がされております。

また、同日、広島県から、この1ページ後半から2ページにかけて記載してありますとおり、2ページ目を御覧いただきたいと思うんですが、丸つき数字で4項目ございます。

最初が、事故原因の早期究明、それから、2つ目に、事故の再発防止策の徹底、3つ目に、事故に関する十分な説明と速やかな情報提供、4つ目として、安全が確認されるまで国内でのオスプレイの飛行自粛、以上4項目について、政府において米側に申し入れをしていただけるようということで、中国四国防衛局に要請したとの情報提供がございました。

それから、週明け12月4日ですが、同日、国会議員に配付した資料として「鹿児島県屋久島沖における米軍オスプレイの事故について」という情報提供がございまして、翌5日にも同じタイトルですが、次のページに、横長の資料が出てまいります。こちらが、12月4日の更新版の資料になりますが、こちらの情報提供がございました。

こちらを見ていただきますと、既に報道等で周知されている内容ではございますけれども、1枚目には事故の概要、それから、現地における自衛隊及び海上保安庁の対応状況、国からの要請と日米の主なやり取りという項目に分けてまとめられております。

この5日に情報提供を受けたものですが、前日からの更新事項が、最初の概要欄の5行目のところがございますが、「また、要救助者と見られる5名が発見されており、うち2名が収容された」という部分が追記になっているのと、下のほうですね、日米の主なやり取りの欄の下の米印ですね、下の2行目、陸上自衛隊のオスプレイの飛行見合わせに関する記載の部分が追記になっておりました。

次のページの2枚目、こちらは搜索活動について、自衛隊と海上保安庁の活動実績をまとめた資料となっております。前日からの更新事項としては、活動実績の欄の、自衛隊の回転翼機SH-60K、こちらの機数が1機から2機になっているところ、それから、海上保安庁の巡視船艇、こちらが2隻に増加になっているということでございます。

現時点で得られている情報は以上でございますけれども、今後、事故調査報告等の情報が、また詳細の情報が得られましたら、本委員会で報告させていただきたいと考えております。

追加資料の報告については以上です。

最後、提示資料はございませんが、11月以降、岩国市内で発生しております米軍人による事件への対応についての報告をいたします。

御承知のとおり、11月4日には暴行事件、それから、11月18日にも不法侵入と暴行の事件が発生しました。その都度、中国四国防衛局に米軍岩国基地に対して、改めて基地関係者の綱紀粛正及び服務教育の徹底、再発防止策について要請していただくとともに、防衛大臣からも米側に強く求めていただくよう要請書を送付しておりますのは、議会にも情報提供をしておりますので、既に御存じかと思います。

さらに、11月29日になりまして、11月2日、米軍人が岩国市内で駐車場の車の中からリュックやバッグを盗んだという事件が新聞報道により明らかになりましたが、中国四国防衛局のほうも報道以上の内容をまだ把握していないということで、当方にも具体的な情報提供がございませんので、この件につきましては要請等は行っていないところでござい

す。

長くなりましたが、以上で報告を終わります。

○山崎委員長 ありがとうございます。それでは、御報告をいただきました件につきまして、よく分からない点などございましたら、質疑を認めます。

たくさん御報告いただきましたので、消化し切れていないという状況かとは思いますが、皆さんのほうから何かございますか。

副委員長。

○中川委員 報告ありがとうございます。

報告については問題ないと思うんですけど、オスプレイのことでお聞きしたいんですけど、廿日市市でも隣のほうでも、オスプレイの飛行差し止めという要求が出ているところでもありますけれども、それは市民団体ですけれども、市として何か2市2町とかで、その辺の動きとかいうのがあるかどうか、ちょっとあればお聞かせ願いたいと思うんですが、お願いします。

○山崎委員長 危機管理課長。

○田中危機管理課長 先ほど説明をいたしましたとおり、国や県から既に要請がされていること、それから、何より事故の詳細がまだ明らかになっていないことから、直ちに市として要請等を行う予定はございません。

それから、岩国市の基地政策課のほうにも連絡を取りながら、どうされていますかというところをお聞きしているんですけども、山口県の基地関係県市町連絡協議会ですね、山口県と岩国市、柳井市、周防大島町、和木町で構成されている団体でございますけども、この件についてもやはり詳細な説明を待ってから考えたいというような動きでございました。

今回の事故機、岩国基地所属ではないとはいいいましても、岩国基地にオスプレイ、一時的に駐機することは日常的でもございますので、事故調査報告等を待ちまして、必要に応じて要請等も検討するものかなと考えているところです。

以上です。

○中川委員 ありがとうございます。

○山崎委員長 他にございませんか。

山代委員。

○山代委員 御説明ありがとうございます。

資料1、阿多田地区の航空騒音状況、これは住民の方からのヒアリング等だと思います。また、資料2、航空機の騒音の測定器、これは機械によるデータだと思うんですが、こちらのほうが必ずしも一致してないように見受けられるんですが、今後こちらのデータというのは精査等行われる予定でしょうか。

○山崎委員長 危機管理課長。

○田中危機管理課長 おっしゃるとおり、資料1のほうは漁協の方をお願いしているんですが、まれに記録が取れていないときもあります。

先ほどの欠測の部分ですね、こちらに関しては、いただいているその苦情といいますか、

記録のほうでは、数字も出てないところにもやっぱりうるさいというような記述もございますので、最初にこれを見たときと、実は防衛の資料のほうが後に来まして、あれって思ったんですけども、そういった部分での突合といいますか、そこまではしてないんですが、やはり何かちょっとおかしいなと思えばですね、ちょっと防衛のほうにこれどうなのということの確認をしていきたいと考えております。

以上です。

○山崎委員長 山代委員。

○山代委員 はい、ありがとうございました。それでは、申し訳ないですが、引き続きよろしく願いいたします。

○山崎委員長 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 ないようでございますので、以上で、日程1については終了といたします。

危機管理課長におかれましては、大変長く御説明いただきまして、ありがとうございます。

ここからは、委員のみの協議となりますので、執行部の方は御退席いただいても結構かと思えます。

暫時休憩します。

10時26分 休憩

10時27分 再開

○山崎委員長 それでは、会議を再開いたします。

これから、日程2、その他についてを議題といたします。

それで、本日はこれからの会議の目的としましては、これからの活動をどう取り組んでいくかということを決めていただきたいということでの会議でございますので、よろしくお願いをいたします。

11月22日までに今後の活動についての意見を文書で提出をしていただきました。

意見について、各提出者からいただいておりますので説明をお願いし、その後に項目事に審議していこうかと思いますが、そんなところでどうでしょうか。

それでは、早速でございますが、提案をいただいております4名の委員から、御報告をお願いいたします。

記載の順序で行きますと、一番上に西村委員からの提出案がございますので、こちらからお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

西村委員。

○西村委員 私自身、基地周辺対策特別委員を二度もさせていただきましたが、最近では、地域との交流はあまり開かれてないというふうに感じて、こういう文章にいたしました。

2つほど書いておりますが、住民との意見交換の対応とか、あるいはもっと阿多田島を生かした基地周辺対策特別委員会の運営とかというふうに書いていますが、これひっくり返して申し上げます。

阿多田島の住民の声が最近意外と議会のほうに届いているとはいえ、以前のような状

況ではないように感じます。要するに、いろいろな面で恩恵を受けとる、まあ阿多田島だけではないんですが、大竹市全体なんです、そういうこともあるし、最近では米軍基地の問題を2市2町で取り上げていろいろやっていますけど、慣れてきたというかね、言葉は悪いんですが、あまりわあわあ言わなくなっている。

最近では特に、世界的にはロシアとウクライナの問題、それから、最近ではガザ地区のそういう攻撃の問題とか、もう世界的に戦争ということに結びつくような行動が多くなって、岩国基地は当然アメリカ軍の基地ですので、誰もが考える戦闘状態というふうに思っているので、騒音云々は先ほど執行部が説明しましたが、いろいろあるけど、これが小さくなるとか、回数が減ってくるとかというのは想定としても考えられない状況であるということ踏まえて、大竹市の基地周辺対策特別委員会、もっと住民寄りの活動をするべきではないかということで、私は今回これを提案させていただきました。具体的にどうということはまだ調べてないんですが、皆さん委員の中でこういうことを含めて、今後どうするのか。

それとあわせて、空母艦載機は年間通じてもう飛来する時期がある程度確定しております。それによって騒音の度合いも高まる、あるいは少なくなるということの繰り返しなんです、もっと市民の声を聞きながら、そして、一番大事なことは、国との、防衛省との約束事で15年間、再編交付金の補助が担保されております。これがいつまでも続くかどうかというのも、国内の事情で考えてみたら、防衛予算が4兆幾らという莫大なものが増えてきよる中で、本当に続くのかなということを含めて、もっと市民の声、阿多田島の住民の声を中心に委員会として活動するべきではないかということを私は提案をさせていただきました。

以上であります。

○山崎委員長 ありがとうございます。

続きまして、山代委員からの御提案をお願いいたします。

○山代委員 私のほうは、先ほどほぼ危機管理課長のほうからおっしゃっていただいたので、内容的にはもう納得ができたんですけれども、艦載機がこちらに移転した後の騒音の部分ですね。先ほどあったデータと住民の苦情を照らし合わせて、今後それをどういうふうに住民の説明につなげていくのか。

また、最後に、御報告がありましたけど、11月4日に暴行事件、11月18日に不法侵入及び暴行という形がありましたので、米軍の構成員による事故に向けた規律の保持及び教育訓練の状況を強くあわせて申し送りをしたいというふうに思っております。

以上です。

○山崎委員長 それでは、続きまして、中川副委員長からお願いします。

○中川委員 私のほうは、先ほど報告があったように、岩国基地周辺の騒音状況を実際にどんな感じかということを委員が知っておくことも大事だと思ったので、一応測定している阿多田島と、これ南栄となっていますけど西栄の間違いです。そちらで一応実際に、そのときに状況がどうなるか分かりませんが、例えば、さっきの90デシベルがパチンコ店の騒音だと言ったけど、実際聞いてみるとどんな感じかというのは分からないですね、数字だけで。それを実際に確かめてみるというのは大事ではないかと思います。

その際に、現地の人の聞き取りとかはしないほうがいいのではないかと。その後で、私たちが知った上でしたほうがいいんじゃないかと思います。

あとは、必要に応じて、先ほどの防衛省とかの方の担当員に来て話をしていただくと。いろんな疑問があると思うので、その辺を担当の方に直接聞いたほうがいいと思います。

また、ほかの基地ですね、岩国以外のような大竹市と同じような状況があるところがあると思いますので、そちらの議会の方などとの交流を行うと。行ったりしてもいいですけれども、リモートで会議してみるのもいいのではないかと思います。

そういった３点ほどを挙げさせてもらいました。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

岡委員、お願いします。

○岡委員 私が申したいのは、中川委員が最初のところでおっしゃったような共通しているのですけれども、やはりどのぐらい我慢し難いのかということを確認するというのが大事で、これは何人かに聞いたところなんです、例えば、同僚議員も実際にどのぐらい阿多田島でうるさいのでしょうかという話になって、聞きに行きはしたのですけれどもどうも、聞くというのは音ですね、議員が行ったときは飛んでいないことが多い。実際確認できないというようなことも聞きました。

そこで、実はどのぐらい我慢し難いのかというのは、実は私の経験からすると、私は実際これまでいろんな騒音が激しいところにいろいろ住んでおります。また、阿多田島にもよく行っているんです。泊まったこともあれば、昼間、数時間ずついたこともあり、かつ近辺ということだと数十回も行っているんだけど、実はそんなにうるさい経験というのはなくて、実は１回ぐらいしかないんです。その１回はどういう状況であったか、またちょっと説明してもいいんですけれども。

そこで、次のような提案をここではさせていただきました。要するに、騒音が生活に実際どれほど支障があるのかについて、既存の測定方法に幾つかの視点を加えて、総合的に検討したいというものです。

具体的には、騒音の発生回数と大きさだけでなく、騒音の継続時間、それにさらに振動や衝撃、大気汚染や悪臭、往来への危険や事故のおそれ、こういった度合いを加味するとどうなるのかということです。さらに、それを鉄道や道路、工場、民間航空と比較した場合どうなのか。

それから、このW値またはL d e n。こういったレベルの航空機騒音の指標もありますけれども、これらに１から５というふうに文章では書いてありますが、正しくは１から４です。これらに１から４、つまり、継続時間から往来への危険など、これを加えたほうが総合的なのではないかということと言うと、新しく見方を提案したいと思います。それが１点です。

そして、２点目としてですが、騒音対策として、これ以上の飛行路調整はあり得ないのか。水平方向または垂直方向にどれだけ距離を取れば、どれだけ騒音が減衰するのかということも、この委員会では基本的な知識としてちょっと学びたいと思っています。それで、

もしこれで飛行経路が調整できるのであれば、意外と簡単に阿多田島の問題は解決するかもしれません。

そして、3番目ですが、防音設備の普及で問題を大幅に軽減できないのか。防音工事はどこまで普及しているのかということが知りたいのですが、過去の特別委員会資料では十分分かりませんでした。

最後ですが4番目、防衛上の必要性を市民にどのように説明し、理解を求めてきたのでしょうか。これも過去の特別委員会資料を見ましたが、見当たりませんでした。

これで以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

今、各委員の皆さんから御提案をいただいた件について、提案の内容についてお伺いをいたしました。

それで、今日の課題としては、これからの活動を決めていくということですので、後ほど新しくこういったことはどうかというような意見があればまた伺うことにしまして、この中からこれを取り上げていきたいということを抽出していきたいと思いますが、初めに、御提案いただきました西村委員の提案部分についての皆さん方からの御意見、これはこうしたらどうかとか、この意見についてはぜひ進めていこう等の御意見がございましたらお伺いをしたいんでありますが。

先ほど、西村委員のほうからは、最近慣れてきたというような、私らもそうありますが、若干そういった部分もあるのかなと指摘をいただいて思いました。

それで、阿多田島の今日の報告書の中で出てきました最初の冒頭の部分ですね、資料1のところを読んでみますとね、今までになかったような声が上がっておるような気がします。比較的今までこんなに厳しい意見というのはなかったと思うんですが、我慢できんとかね、いらいらするとか、そういった書き込みが入ってるんですね。

この辺がちょっと今までの阿多田島の概況の漁協の報告とは少し違うのかなという印象を私は受けました。

また、こちらに私、この近辺に住んどるわけですが、最近、航空機の騒音といいますか飛行機もたくさん飛ぶようになりましたし、そういった意味では若干、雰囲気が変わったと同時に慣れもあるのかなと。相反する部分が私たちの生活の中で混在しとるのではないかなという気がします。

そういった中で、皆さんの今、西村委員が御提案いただきました件について、ちょっと審議を深めてみたいと思うんでありますが、いかがでしょうか。

はい、副委員長。

○中川委員 そうですね。住民の声を聞くというのは大切だと思います。実際にどういったことが起こっているのかということも聞いてみるのは大事だと思いますけども、それに対してお答えができるかどうかというのはちょっとどうなのかというのがありますので、ただ聞くだけでいいのか、それとも、どこまでお答えするのかということのもちょっと考えておかないといけないのではないかと思いますので、その辺についてはどうなんでしょうか。

○山崎委員長 ただいま副委員長から提案がございました。調査するのはいいけれども、調

査した後どうするんだという話だったかと思うんですが、その辺についてはいかがでしょうか。

どうぞ、中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。私も西村委員と同様にですね、やっぱり市民の方々の声を聞くということは大切だと思います。中川副委員長がおっしゃっていただくように、どのようにしていくのかというところの結果を見据えた上での議論が必要だと思うんですが、その前にですね、意見を聞く前に、例えば、他市町、さっきほかの委員の方がおっしゃられたと思うんですけど、どのような要望が実際出されているのかとかという、この特別委員会の担当委員の知識の底上げの上でこういう要望が他市町であるんだったら、市民の皆さんとの声を聞くときに、こういった討論とか会話ができるなというような、何も準備せずいきなり意見聞きに行くっていう前のこの知識の底上げが必要なのではないかなと思いました。

例えば、ちょっと今調べたところでも、三沢市とかでは実際の住民の声として、飛行したときの騒音ではなくて飛行する前のアイドリングの騒音というような、実際に地域に行ってみないと分からない声とかというのが他市町では上がっているというところですので、ある程度ほかの市町でどういったその騒音に対する声があるのか。また、どういった要望を出してきたのかということ踏まえて、勉強した上でお声を聞きに行くというのが大切なかなというのが1つ考えがあります。

もう1つはですね、騒音っていうところで、阿多田地区の方の声というのが非常に多くあるのは事実だと思うんですが、谷和地区とかもですね、私も回ってみたら、あそこで住民の方の意見なんでちょっとすみません、整合性が取れてないんですけど、谷和地区も山に囲まれてあそこで加速するというのもすごい音が鳴るということだったので、阿多田地区の方の声だけでいいのかどうかというところで、広く意見を聞くという視点も大切なかなと思いました。

以上、2点の御意見です。よろしくお願いします。

○山崎委員長 はい、ありがとうございます。他にございませんか。

岡委員。

○岡委員 これは先ほど説明申し上げたところと大体同じなのですが、住民の意見を聞くといいにしても、結局のところ、場合によったら特定の人の意見、特にこういう意見を強く言いたい人の意見というのが出て、黙っている人というのも実際はいると思うんですね。

それはもう、この種の騒音問題とかというのはもうよくあることなので、まず何よりも私たちが実態を知らなければ、その聞いたときもそれを評価できない。なので、他市町との比較もそうなんですが、私たちには現場がすぐそこにあるわけですから、その実態をまず私たちが十分知らないと、もう何を聞いても評価ができないので、これはもう必ずやるべきだと私は思います。

以上です。

○山崎委員長 はい、ありがとうございました。

日域委員。

○日域委員 難しい問題ですよね。まずは勉強しようということが大事だと思いますし、実態をできるだけ把握しようということはもちろん大事なんですけども、例えばですよね、まあ防衛上の問題じゃないですか。このデータの開示からいろんなことについてあまり丁寧な情報が出てこないというのが1つと、それと皆さんさっきおっしゃいましたけど、島の問題でほとんど我々は体感してないわけですよ。私もあそこを昔、1軒1軒歩いたことがありますけども、いや音なんかせんよと言う人もいますよね。それがどういう意味か知りませんよ。音はするけど別にあれ嫌じゃないよっていう意味かもしれませんし、もう全面的にそういう言い方する人もいるし、やかましいという人もいるし、個人差がありますよね。

実は思うんですけど、さっきの資料2というのがありましたよね、90デシベル以上、マーカーで塗ってあるやつ。あれ、私の経験をちょっと言わせてもらいますけども、いつだったかな、この委員会で騒音の測定に行った時期があるんですよ、メンバーでペアを組んでですよ。あのとき、たまたま当時議員でいた賀屋議員と一緒に、漁協の部屋を借りてですよ、朝からかなりの時間、あそこで調べるわけですね。調べるって、もう音がしますから、音がしたらベランダに出て測定器をこう空に向けて測るわけなんですけども。それはそれで何回か音しましたから測ったんですけども、そのときに組合長が面白い資料を持ってきて見せるんですよ。それがさっきの資料ですよ。見たことないんです、私。議会じゃないですから、あれが。何でこれが漁協にあるんだと思ひまして、それでコピーしてくれんと言ったら、組合長が何と言ったかという、いやこれは防衛から預かつとるけん、ちょっと承認がないとね、コピー渡したらまずいかもしれんけん、ちょっと待ってねと言って、それで電話してくれました。そしたら、防衛のほうから駄目って、これだったわけですね。私があそこの部長にダイレクトに電話かけてね、何で民間人に出すのが議会に出せんのかって文句言ったわけですよ、私が。そしたら、この議会中でそれから出るようになりました。

そういうところがあってね、あれがあって初めて、あの数値をがらがらぼんしたのがW値であつたりね、L d e nであるわけですよ。ただね、うるさき指数がこうですとかね、L d e nがこうですと言われてもですよ、何でここが、その前が分からないじゃない、プロセスがね。あれが本当にデシベルという騒音のデータがあって、それがいっぱいあるんですよ。あるけども、真っ昼間に音がするのと、夜中に音がするんじゃ、迷惑の度合いが違うわけですよ。夜中に寝るときにがんとやったら困るけど、昼間にがんとやっても大したことないじゃんって、そういうのをいろんな係数をかけてですよ、最後に誰でも分かるようにしたのがあの、W値とL d e n値の違いは私よく分かりませんけども、最初W値についてはそういう説明を受けました。そういうふうにな、いろんなことが分からないんですよ。

それから、もう1つはね、これは国防上の問題ですから、日米地位協定ですからね、根っこは。我々が文句言ったりできるのは防衛省であって、あれを持ってるのはアメリカですからね。その間にはもう地位協定というのがあって、だからお願いはできるけども、日

本政府に特別な権限がないわけですね。

そういうこともあってですね、だから阿多田島の方に対して、これをやりますとか頑張りますとか言ったところで、それしよせんは防衛に対することです。そこで終わりです。

もう1個はね、さっきの中にもありましたけど、建物のことがあるじゃないですか。建物の防音工事。あれも私は気になって不思議で、今でもそうですけども、大竹市では本来関係ないんですよね。あれは皆さんが自分で防衛と交渉するというのは言い過ぎですけども、大体建築業者が間に入ってますけども、そういう人たちが手続をしてくれてやるわけですね。

だから、議会では傍観はしてますけども、基本的にタッチはしてませんよね。だから、市の職員も詳しくは知らないんだろうと思います。

私は仕事柄、個人的には防衛と関係ありますけども、それは防衛と交渉するって面白い役所で、なかなかあれですよ、それは騒音があったほうがいいのか、ないほうがいいのか分かりませんが、本当に大竹市がもうちょっとそういう方たちに支援してもいいなという気が前から少しはしてますけども、あの島ですよ、例えば、高齢の方がいて、その高齢の方が防衛に補助金を申請して補助金をもらってるやるわけですから、それは大変ですよ。業者が来て、ああだこうだと言ってやってくれるんでしょうけども、その業者の方もいわゆるこの手の方ですからさまざまありますしね。だから、そういう今、島の方が置かれている立場というのは理解しとかなないと、なかなか対応が取れない。

それと、さっき西村委員がおっしゃったように、単なる被害じゃなくて国防上の問題でもありますし、それは今まではやかましいばかり言ってましたけど、ある意味では、それが日本の安心につながってるのは事実ですからね。ウクライナもあるし、それパレスチナもありますけども、何を隠そうね、北朝鮮があつたりですよ、中国があつたりですよ、世界的に見たらものすごく危なっかしいエリアでもあるわけですからね。

そこで音はするけども、音を我慢するのと、安全上の意味で米軍に頑張ってもらうのと比べる必要もあると思いますからね。そういう意味で、大きな理解をしておく必要もあるという気がします。

だから、この問題、大竹市議会でやるにはちょっと荷が重いんですけども、いつもどうしたらいいかなとは思ってますけども、私のちょっと経験を言わせてもらいました。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

西村委員の提案についてはこの辺で一応、まだ議論を深めたい部分もありますけども、打ち切らせていただいて。

はい、どうぞ。

○中川委員 提案ですけど、声を聞くというのは大事だと思うので、その声を聞く時期、対象、どういうこちらが議会として行くのか、基地対策として行くのか、その辺を検討するということでどうでしょうか。

○山崎委員長 今、副委員長のほうから、住民の声を聞くと。それから、時期とか対象とかを検討したらどうかという意見がございました。

どういったことを決めていくかということについては、その中の1つの項目として、今の副委員長長の提案を受け止めるということにしてですね、実は今日、この後の会議がたくさんあるようでして、ちょっと時間的に制約がありますんで、次に進ませていただいて、すみません、山代委員のほうから提案がございました件について、項目的には3つありましたんですが、米軍の教育訓練について少しどうなんかな。実際、犯罪が多いので、研究してみたらどうかという提案だったかなと思うんであります。違ったらば、また教えてください。

ここの部分について、ちょっと皆さんの御意見を伺いたいんですが、どうでしょうか。

最近、特に事件、事故が多発しましたから、教育実態はどうなっとるんかいなという不安も私どもとしては感じると思います。そうは言っても、先ほど言われました防衛の関係、米軍との関係、日米地位協定のやつの関係とか、いろいろ大きな問題もありますんで、教育の実態について、米軍からどうこう言うわけにいかんと思いますんで、防衛のほうからどういうふうな要請をしてらっしゃるかとかいう程度の質疑とか要望とかができるのではないかなとは思いますが、その辺について皆さんの御意見を伺わせてください。

日域委員。

○日域委員 これもね、全て報道なんですよ、ソースといいますか元がね。それぞれ私が前から思うのは、アメリカ人というかアメリカ兵というか、どこかに何かあるんだろうと思いますけども、沖縄と本土で違うことをすごい感じるんですよ。沖縄でやっていることは相当乱暴なことをやっていますけども、本土では、ないことはないですよ、そりゃああいう若い男の集団みたいなのがあるわけですから、それはありますけども、私1回だけ交通事故の経験がありまして。大竹高校の裏でですね、うちの弟が米兵の車とぶつかりました。そのときに私生まれて初めて、初めてじゃないけど、その交渉絡みですよ、米軍基地に入りましたけど、よく逃げたとか何とかあると言われますけども、そのときは完璧でした。何にもしないのにA I Uの保険で100%見てくれました。そのとき飲んだコーヒーがアメリカンコーヒーでおいしかったのを覚えてますけどもね。だから、報道によって振り回されるのは間違いだと思います。

本当に不思議なんですけど、多分沖縄でやってることと、だからアメリカ人から見たときの沖縄というエリアと、日本の本土というエリアは、多分どっかの認識に違いがあるのかなという気がしますけど、分かりませんがね。少なくとも、広島というか本土でやっていることはね、そんな大きな問題はないような気は私個人的にはしてますけどもね。

以上です。

○山崎委員長 他に何か山代議員の提案についての御意見等がございましたら、お伺いしたいんですが。

岡委員。

○岡委員 今の3番目の米兵の問題ですけれども、これは米軍のほうもかなり努力をしているのは確かで、なかなかこれは私たちが言ったから改善し、言わないから問題がどんどん起こるというものでもないのではないかなというふうには思います。ただ、もちろん申し入れ等、それはあってもいいだろうとは思いますが。

それよりも私は、山代委員の提案の米軍の特にこの飛行ルートというところにやはり関心があるところで、私の提案でも言ったのですけれども、飛行ルートを変えるだけで、実はかなり阿多田島の問題については改善するかもしれないということです。

今は最新の航空機ですと、もう1秒間に上昇というのが、もう200メートルそこらもできるんですよね。もちろん一気に吹かすと、1つのその部分も騒音が起きるわけですが、しかし、高空に行けばかなり騒音というのは減衰していきます。阿多田島の辺りを通る頃にはまあ十分我慢できる範囲になるかもしれません。なので、飛行ルートというの変更というのはどのぐらいできるのかというのは私も関心の1つで、その辺は山代委員とも関心を共有しているというふうに申し上げたいと思います。

以上です。

○山崎委員長 山代委員の意見についての他に。

はい、中野委員。

○中野委員 すみません、私も本当にそういった学びの機会をいただきたい、実質底上げしたいという思いがあるんですが、そもそもですね、やっぱり御提案いただくということがものすごい大切だと思うんですけど、それができるかどうかの判断というのがこの場で分からない、一議員として。

例えば、この山代委員が教育訓練の状況の確認の学びをしたいということで、私も本当に興味あるんですが、それができるかどうか。例えば、他市町村でそういった事例があるのかという根拠がないと、多分この場での議論が深まらないのかなというふうに思います。

なので、今後やっぱり委員会内での議論を効率よく進めていくためには、提案に対してのこの根拠と説明、例えば、教育訓練の状況の確認についてだったら、ほかのまちでこういうふうな事例があったとか、先方に聞いてみたら、そういった説明が行えるかもしれないというぐらいまでの情報がないと、多分この判断、議論が進まないのかなというふうに思いました。

興味はあるけど、それができるかどうか分からないというところが、委員会としての議論でどうかなというのが、今はちょっとすみません、判断がつかないというのが正直な意見です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

今、中野委員から素朴な疑問といいましょうか、提案されました。私自身もそういうふうに思っておりますが、今日は皆さんからの思いを出していただいておりますので、その中での議論をし、また深めていきたいと思っておりますので、飛行ルートの調整とか、教育訓練の問題とか、いろいろ議論をしていく中で、それはできるだろうとか、それは無理だろうとかいうことをまた進めていけばいいかなと思って、こういう議論をしています。すみません。

山代委員の提案について、ほかにありますか。

はい、岡委員。

○岡委員 もう1点だけ、ちょっと補足ですが、他市町との比較、先ほど私は阿多田島の住民の声を聞くときに、自分たちのほうがどういう状況かを把握してないと評価できないと

いうことを申しました。実はこれは他市町との比較についてもやはり当てはまるのではないかというふうに思います。

とにもかくにも、阿多田島の状況が、もし自分たちがそこに住んでいたらどんな感じなのかということが十分分からない限り、いろんなものを比較する根拠、足場がない。なので、この委員会をやる上でそれはもう前提になるというふうに私は思います。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

はい、山代委員。

○山代委員 すみません、ちょっと補足なんですけれども、私も米兵の犯罪率が決して日本と比べて突出しているとは思いませんし、当然来ていただいているという感覚から、向こうの方もかなりの訓練、教育をして徹底はされているという認識はありますが、事が起きている以上ですね、市民感情として言わないわけにはいかないという部分があると思っていますので、あえて提案をさせていただいたというところになります。

以上です。

○山崎委員長 はい、ありがとうございます。優しい思いやりでの提案だということでございます。またよろしくお願いいたします。

それでは、続きまして、中川委員の提案について少し深めてみたいと思います。よろしくお願いします。

藤川委員。

○藤川委員 すみません、皆さんの意見、かぶつとる意見のほうが多いと思うんですけど、やっぱり現場を知る、一番大切だと思います。私も阿多田島に7年間、今ではないですけど過去に通った経緯がありまして、晴れとるときは高いところを飛行機が飛んで、うるさいですけどそこまでなんですよね。曇つとるときは低いところを飛ぶので、うるさいんですよ、それが1機であろうが。

ここ最近の意見のところを見ますと、編隊を組んで飛んでいるとか、数が多いとか、それは私が阿多田島に通っているときとちょっと違う御意見なんですよね。私もそれは経験してないです。

プラス、阿多田島にはよく行きますし、測っているところも場所も計測値も知ってますけど、現場に行ったことは実際ないです。この現場の測ってる今、50と。ちょっと単位は分かりませんが、今50の音なんですと。でも、その50の音を知らないんですよ。

だから、現場でその50の音を確認したい、自分で体験してみたいというのは気持ちはございます。

すみません、以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。他にございますか。

はい、中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。私もこの現場を見に行くということがすごく大切だなと思うのが、よく気象観測とかですね、何々市、最高気温何度になりましたというのを実際現場に見に行ってみたら、ものすごい草が鬱蒼としていて、そりゃ気温上がるよなとい

うような現場のときもあるので、実際どこで計測されているのかというのは非常に現場を見てみたいという興味があります。

また、すみません、日域委員にちょっとお伺いしたいんですけど、さっきその計測に行かれたってということがあったじゃないですか。それをある程度、今日この時間に飛ぶなとかっていうのじゃなくて、全くこう。

○日域委員 いえいえ、順番にもう日にちを決めて。

○中野委員 日程だけ決めてってということなんですね、なるほど。そういう事前に今日飛ぶかもしれないとかというのが分かれば、現場に行けるな。かつ、現地で計測値のところで見れるなと思ったんですけど、そうじゃないということですね。なるほど、分かりました。はい、すみません。

ちょっとその意見でした、はい。

○山崎委員長 はい、ありがとうございます。他にございませんか。

岡委員。

○岡委員 実態を知ることが大事というのが、私はもう先ほどから申していることですが、すけれども、例えば、もう少し資料で分かることだけでもなんですが、今回で言うと資料5、令和2年ということであれば資料6ということで委員会に出ているんですけど、令和元年、令和2年というのが移設前から随分と回数が増えているというのがあります。

ちょっと簡単に言いますと、令和元年ですと上期だけで1,843回、令和2年の上期で1,182回、その前の平成29年の832回から随分増えていると、こういうわけですね。そして、今日の資料で言いますと、令和5年の上期が2,144回ですよ。資料5の45ページのところに載ってます。2,144回というと非常に多いような気がするのですが、これを1日当たりということで計算すると、これは私のさっきの計算間違いでなければ11.7回です。

私は決して阿多田島の被害を過小評価するつもりは全くありませんが、ただ、1日11.7回、この70デシベル以上の騒音があるということが我慢の限度としてはどんなもんなんだろうなという。そういうのを含めてやはり知らなければですね、声だけを聞けば、会話が途切れて困る、いらいらが募るというのがありますけれども、1日12回というのはどうってことないと言うつもりはもちろんありませんが、実態を私たちが知らなければ、とにかくにも評価ができないということは、やはり繰り返しになりますが申し上げたいと思います。

以上です。

○山崎委員長 はい、ありがとうございます。実態を調査することについては、先ほどから皆さんの御意見があるようでございます。他にありませんか。

日域委員。

○日域委員 騒音ですけどね、さっき今、岡委員がおっしゃいましたけど、11回が多いか少ないかですけども、そもそもがピアノ殺人なんてありますよね。上のフロアの子供がですよ、夜下手くそなピアノを弾くと。いやそろそろ始めるでっってもう最初から警戒してるわけですね。そしたらものすごい嫌ですよ。でも、自分の子供にピアノ買ってやったと。それがね、2階にあると。やっとな練習始めた。下手くそでも練習してるじゃんとしてくう

れしいわけですよ。人間って感情動物ですからね。

例えばね、岩国市だったらですよ、米軍基地と仲よくしようというね、そういう団体があるんですけども、大竹市の場合はですよ、どっちかという米軍基地は迷惑施設であって、ネガティブなことしか言わないところがあるんですけども、あれが例えばですよ、阿多田島のしかるべき人たちが時々基地に招待されて、こうなんですって言われたらですよ、ああそうか、あいつらも頑張るとるんやと思えばですよ、わしらはじゃあね、いや、それだけで音がやかましくなくなる感じもあります。人間として、それはね。

もう1個は、他市町というのがありますけども、多分他市町ってこの辺りよりやかましいところは多分ないんかなって。基地なんかもそうですけどね、私は大和市しか行ったことないですけども、大和市はうちには基地はないけど被害はうちが一番大きいんだと言って、大和市の人はだから困るんだとは言っていましたけど。でも、どうなんですかね。再編交付金というのはこの前終わったんですけど、今、何か名前変えてまた大竹市の場合は15年継続と言われましたけど、あの再編交付金で打ち切られたまちがたくさんありますからね。みんなが延びたわけじゃなくて、この艦載機が移駐したか何かそういう理屈でこの辺は継続しましたが、あちこちあったんですけどね、もうそれはもうあっさり打ち切られたまちもたくさんありました。

だから、なかなかほかのまちっていったら、多分被害の状況が違うかなという気がしてですけどね。何はともあれ、状況を勉強したらいいと思います。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。この辺で、次に。

岡委員。

○岡委員 ちょっと補足なんですけれども、さっき1日当たり平均で11.7回ではないかというふうに私申しました。さらにもうちょっとこの計算をしてみますと、この間でですね、1日平均が、私のちょっと計算する10回を超えたのはこの上半期が初めてなのではないかと思います。さっき移設後に増えたという令和元年の上期、令和2年度の上期はですね、それぞれ1日10回、1日6.5回、70デシベル超えがあったという感じなんです。

何をするにも、基本になる私たちの知識は、体験がなければですね、どうしても評価ができないので、繰り返しになりますが、ちょっとそれは強調したいと思います。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

山代委員。

○山代委員 すみません、私も意見をかぶすようにはなるんですけども、実際騒音を経験してみないと分からないという部分は大事だと思います。30年以上前になりますけれども、私の中高の母校からは飛行機が丸見えでした。実際、飛行訓練もするんで騒音も出ました。が、その中でも居眠りをする人間はたくさんいました。

だから、決して阿多田島の被害が少ないというわけではないんですが、これは国防上の関係なんで、議会で行えるかどうかというのは分からないですけども、阿多田島の方には御理解とお願いをちょっとしていけないといけないのではないかなというふうには考え

ます。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、岡委員の提案部分に。

(発言する者あり)

○山崎委員長 はい、どうぞ。

○寺岡副議長 すみません、あくまでオブザーバーとしての意見なんです、意欲のある御意見それぞれお持ちいただいて、熱心にやったださっているなというふうに思っています。

さまざまな委員会活動のやり方を今、模索しておられるところなんです、お一人お一人がですね、じゃあこの委員会活動の成果とは何なんだろうかということをイメージして、今のこの入り口というのを考えたいと思います。

これまでの御意見の中で、端々で出てきたと思います。例えば、評価をするためにしっかり勉強したいであるとか、国のほうにしっかり地元の苦労の声を届けて、交付金のほうの維持をさせていくとか、端々で意見は出ているんですが、我々地方議会の役割をこの特別委員会の営みでどう果たしていくか。出口はそこにあるということをそれぞれがイメージを持っていたきながら、じゃあ今はこれをする段階というふうに深めていっていただけたらいいんじゃないかなというふうに思いますので、委員長その辺りも御配慮いただきながらと思います。お願いします。

○山崎委員長 ありがとうございます。今、寺岡副議長のほうから御提案をいただきましたので、アドバイスいただいた部分をしっかりと考えながら進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○寺岡副議長 10秒付け足させてください。お願いします。

○山崎委員長 副議長。

○寺岡副議長 何が大竹市のためになるか、何が大竹市民のためになるか、それは一部市民か、それとも全体の市民か、こういったところがキーワードになると思いますので、よろしくお願いします。

○山崎委員長 それでは、続きまして、岡委員の提案について深めてまいりたいと思いますが、いかがでしょうか。

副委員長。

○中川委員 前半部分はちょっと今までの現場を確認するということでもいいのではないかなと思うんですけど、後半の部分で、私たちがやっぱり知っておかなければならないことがあると思うんですよ。例えば、再編交付金ですけど、どういうふうに使われているとか、あと、騒音対策がどのように行われているか、補助がどのように出ているかとかいうことを勉強したほうがいいと思うので、その辺を執行部か何かで研修をするというのはどうでしょうか。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。今の副委員長の意見を含めて、皆さんのほうから。

日域委員。

○日域委員 いや多分、執行部は知らないです、何も。例えばね、民間防音、住宅防音があるじゃないですか、阿多田島の。あれで防衛に電話しますよね。終わりましたって、終わりですよ。何やそれって、ものすごく分かりにくい制度なんですよ。例えばね、わし今から阿多田島へ新築するんじゃないけど、普通だったらですよ、新築するんじゃないけどその防音部分だけはもらえますよねって言ったら、多分これですよ。すごく分かりにくいんですよ、制度が。

それで、それを理解するのに大分時間かかりましたけど、そういうことをね、業者のほうは業者のほうで上手に営業活動に利用して、ちょうどいい人、分かりませんけどね、ターゲットになりそうな方に対して営業行為を仕掛けるのかもしれないけども、よく分かんのですよ。

やっぱりね、さっきの副議長のアドバイスを踏まえて考えれば、そりゃ大きな話ももちろん理解はいるんですけども、具体的には、島の方から見たら、防音工事をするのにどうやったら有利に上手にできるか分からんと。業者に頼んだんじゃないけど何かしら業者がやってくれたんじゃないけど、どうかいの、あれでええんかいのって、何かわしら、業者がもうかったかもしれないけど、わしらは1つも変わってないでって、そういう思いをしている方がかなりいるんじゃないかと思うんですよ。

それに対して大竹市というものがですよ、市の住民ですから、サポートするのはできると思うんですけども、その辺ちょっとね、だから補助金の制度から始まって勉強したらいいなと思いますし、最近ちょっと私も調べてないんですけども、さっきのグラフにありましたよね、沖合移設をしましたよね、岩国基地に。

大竹市はね、沖合移設の前のデータでまだやってたんですよ。向こうのほうが早く変わったんですけども、何で変えんのんかって防衛に言うたらね、いや、そのうち見直すと言ってましたけど。意外にね、大竹市というか広島側のせいかどうか知りませんが、ほったらかしといいますか。もちろん、沖合移設になったから、阿多田島がやかましくなったのか、騒音が軽くなったのか、いろいろあると思いますけどもね。

でも、そういうこともあってね、やっぱり根っここのことはやっぱり調べたらいいなと思いますし、住んでる方から見たらやっぱり住宅部門というのは大事な部分だと思いますからね。それは掛け値なしに市役所としてですね、協力を本当はすべきじゃないかなと思います。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。副議長がちょっと所用で中座されますので、よろしくをお願いします。

他に何かございませんか。

中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。岡委員の御意見というか全体なんですけど、副議長おっしゃっていただいたように、どう市民に対してフィードバックできるのかという出口を見据えた上での全体的な議論なんですけど、やっぱり先ほど日域議員もおっしゃっていただい

たように感情の部分というので、住民の方にきちんと情報とか届けることができていないかもしれない、これは分かんないです、すみません。というところもありますし、何の情報が必要としているのかという理解が進むと、感情的にそういうことだったのかっていうこともあるのかなと。解消される課題というのがもしかしたらあるのかもしれないなというところで、ごめんなさい、ちょっと仕組みの話になって申し訳ないんですけど、仮に住民の方とのお話をする際に、聞くだけじゃなくてこっちからどういう情報を、今の補助金のお話とかもあったと思うんですけど、提供するというとおかしいんですけど、どういった情報を住民の方に届けたらいいのか、聞いたらいいのかという協議会になるんですかね、委員会という議論の場、何を伝えて何を聞きたいのかという話し合いをする場を勉強会とあわせて設定したらいいのかなと思います。

なので、勉強会とかも単純に議員の知識欲ということじゃなくて、議員が得た情報をどう地域の皆さんに還元できるのか、共有できるのかという点での議論が必要かなというふうに思います。

以上です。

○山崎委員長 ありがとうございます。そのほか、皆さんのほうで御提案、御意見等ございましたら伺いたいたんですが。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 なしということで、以上で、終結します。

暫時休憩します。

11時22分 休憩

11時23分 再開

○山崎委員長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

本日、皆さんからたくさんの御意見をいただきました。そして、非常に前向きな皆さん議論をいただきました関係で、たくさんの要望が出てまいりました。これから取り組むことにつきましては、議長を含めて副委員長と私とで皆さんから出された意見の中で集約をして、再度メールでお送りします。

そして、それについてのまた会議をさせていただくという段取りで行きたいと思うんですが、現在出された意見を大体まとめてみましたら、他市町との交流をしたいとか、基地問題についてのね。あるいは、騒音の実態調査をしたいと。防音工事の状況はどうなのかと。それから、防衛に対して要望ができるのかどうか。それから、防衛との交流会、研究会、勉強会を開催したらどうかと。それから、岩国基地の役割について研究、勉強したらどうかという意見もあったように思います。

こういったところの中でですね、米軍飛行のルート変更についてとかというようなお話もありましたんで、この辺を含めて、議長、副委員長と私とでいろいろ検討してみたいと思います。

再度、今、私が申しあげました項目以外に、これもぜひ加えてほしいというのがありましたら、伺いをします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 それでは、今後そういう運営をさせていただきたいということによろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山崎委員長 大変長時間にわたりまして議論をいただきました。皆様方の御意見をしっかりと踏まえて、これから委員会をつくっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

本日の議事は以上で終了いたしました。

これをもちまして、基地周辺対策特別委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

11時25分 閉会